

特別寄稿

若き田中先生と LISREL

住谷 宏

目次

1. 若き田中正郎先生との出会い
2. 若き田中正郎先生の朝食
3. LISREL を使った初めての共同研究
4. 深夜のコーヒー
5. 若き田中先生の学会への貢献

1. 若き田中正郎先生との出会い

ある日、故鈴木安昭先生（青山学院大学名誉教授、元青山学院大学副学長、元青山学院大学経営学部長）からお電話をいただきました。電話の内容は、鈴木安昭先生のご自宅に招きたいという内容で、奥様が手料理を振舞ってくださるということと会わせたい人がいるということでした。

約束していた日に鈴木安昭先生のご自宅にお邪魔すると素敵な新築のご自宅で商業デザイナーの方が設計されたとか。そこで紹介されたのが田中正郎先生でした。田中正郎先生が青山学院大学経営学部に専任講師として就任された年でした。鈴木安昭先生から、田中正郎先生は甲南大学で故山中均之先生のところで研究されていた方で、もともと理学部の出身で、データ解析に秀でた才能をお持ちの方だと紹介していただきました。そして、二人とも若いし、持ち味が違うので二人でこれからは是非一緒に研究して欲しいと言われました。同時に、もしも研究する場所がないのなら鈴木安昭先生がいつでも青山学院大学の部屋を確保してあげるとおっしゃってくださいました。

私は緊張のあまり、途中で思わず、煙草を吸ってもよろしいでしょうかと言ってしまいました。奥様が灰皿を持ってきてくださったのですが、煙草に火を付けた瞬間、鈴木安昭先生の戸惑っている表情を見て、新築のお宅で煙草を吸わない方々がお住まいのところなのだと悟り、一瞬でまずいと思いました。慌てて火を消し、すみませんと申し上げ、鈴木安昭先生のご自宅の外に出て、一服しました。ヘビースモーカーだった当時の私にとっては、この煙草の件は苦い思い出的一幕です。

2. 若き田中正郎先生の朝食

後日、田中正郎先生と一緒に研究することになり、ある日、田中正郎先生の当時のご自宅にお邪魔する事がありました。その時に、「朝食は立ったままで食べる。その方が効率的である。牛乳は一日250ml 飲み、8枚切りの食パンを購入し、一日2枚食べる。そうすると、どちらも4日で消費できる」と得意げに話される田中正郎先生にビックリしたことを覚えています。その時、何を打ち合わせするために訪問したのかもまったく覚えていないのですが、既述の田中正郎先生の発言だけは今でも覚えています。田中正郎先生の合理的な思考・行動に驚くと同時に私には無いものを持っていらっしゃる方だと強く思いました。

3. LISREL を使った初めての共同研究

ある日、私は中小企業庁の小売商業課長から呼び出されました。何かと思って出向くと、昨年度の調査研究の成果が良かったので、今年度、中小企業研究所の予算から300万円確保したから好きな研究をしてもいいよと言われました。形式的には某研究所に委託するのですが、研究内容は私が自由に決めて良いというもので、委員会形式をとって欲しいと言われました。

当時、田中正郎先生はご自分の預金から70万円を出して、スウェーデンの研究者から日本でLISRELというソフトを使っても良いという権利を購入していました。何が届いたのですかと聞くと田中正郎先生はA4の紙3枚と言いました。A4の紙3枚のために70万円も出したのかと驚いたことを覚えています。しかも、そのLISRELを動かすために、田中正郎先生は当時の汎用コンピューター

にそのプログラムを組み込んで、使えるようにしたのです。私はただただ驚いていました。私なりの理解では、LISRELは当時のパス解析のような分析をもっと高度にできるというもので、継起的因果分析のかな〜と当時は思っていました。今では、LISRELは共分散構造モデル分析用コンピューター・プログラムとして広く知られ、SPSSにも組み込まれるようになりました。そのLISRELを社会科学の分野で、日本で最初に使い始めたのが田中正郎先生なのです。

私は、田中正郎先生からLISRELのことを聞いていましたし、LISRELを使った実証研究をしたいという田中正郎先生のお気持ちも知っていましたので、この中小企業研究所の予算を使って、LISRELを使った実証研究をしようと思いました。そこで、卸売業とスーパーとの取引を題材にし、全国の日用雑貨卸売業10社のヒアリング調査、及び日用雑貨卸売業に対するアンケート調査をする企画を立てました。

田中正郎先生と全国の日用雑貨卸売業10社のヒアリング調査を行いました。宿泊を伴う出張も何度かあり、田中正郎先生と一緒に食事をしたり、お酒飲んだりしながら、田中正郎先生がどんな研究をしたいと思っているのかなどをお聞きしました。これはとても楽しい思い出の一つです。10社のヒアリング調査を終え、二人で仮説を考え、アンケート調査項目を作り、アンケート調査を実施しました。そして、問題提起とか仮説などを私が書き、実証分析の部分を田中正郎先生が担当し、二人の共同研究成果が生まれました。

その成果は、日本マーケティング・サイエンス学会の全国大会で、共同研究の成果として二人で研究報告しました。忘れられないのは、その全国大会の懇親会で、故荒川祐吉先生（神戸大学名誉教授）に声をかけられ、絶賛されたことです。雲の上のような存在の荒川祐吉先生から褒められ、とてもうれしかったことを覚えています。荒川祐吉先生は、これからも二人で共同研究を是非進めなさいとおっしゃってくださいました。その時に報告した内容は、「卸売業満足度に与える対スーパー取引の効果」『マーケティング・サイエンス』No.29、1987年となっています。また、『マーケティング・サイエンス』には研究したことの一部しか書くことができなかったのが、「スーパーとの取引における卸売業満足度の構造分析（上）（下）」として、『青山経営論集』第21巻第4号および第22巻第2号、1987年に掲載されています。この研究成果は、日本において、少なくとも流通・マーケティングの分野で最初のLISRELを使った実証研究でした。たまたま私は田中正郎先生と共同研究をやらせていただいていたため、その榮譽に預かりました。

4. 深夜のコーヒー

また、ある時、私がボランティア・チェーンの加盟店調査をする機会がありました。その時に、やらなければいけない調査項目と同時に、その時個人的に研究していた「店舗レベルでの小売生産性の規定要因分析」の研究に調査データを使えないだろうかと考え、その研究に必要な質問項目も質問紙に入れてみました。後日、調査が終わり、データが入った磁気テープが届きました。その分析を田中正郎先生に相談していたのですが、田中正郎先生は、まず根津にある東大の計算機センターに行って、データをセットする必要があるといいましたので、私は初めて、東大の計算機センターに行って、

田中正郎先生が作業するところを見ていました。その後、ある事務所に行き、音響カプラーを使って、電話回線でパソコンと東大の計算機センターを結び、私が分析したいと思っていた方程式を田中正郎先生が入力してくださって、その分析結果を待っていました。あっという間に結果が出たので、プリントアウトし、二人で結果を見て、どのように方程式を改良したらよいかを相談し、再び田中正郎先生がパソコンを操作し、結果を待ち、その結果を見て、どのように方程式を改良するべきかを議論し、また入力し…という作業を繰り返していたらとくに日にちは変わっていました。田中正郎先生はまだまだと言い、「まだ東大の計算機センターにアクセスしている人が全国で 100 人以上いるから、アクセスしている人が二桁になったら止めよう」と言いました。結局、午前 2 時過ぎまで、時々コーヒーを飲みながら、その作業をしていました。これは強烈な思い出のひとつです。田中正郎先生にとってはどうやらそのようなことは珍しい事ではなかったようです。私は、今も、誰もいない空間で飲んだ、あの夜中のコーヒーの味は覚えています。その時に、分析したデータを活用した研究成果は、「店舗レベルにおける小売生産性の規定要因に関する実証研究」『千葉商大論叢』（1989 年 3 月）となり、日本商業学会の全国大会で研究報告もしました。この研究成果は、田中正郎先生のご協力・ご指導がないと生まれていなかったものです。

5. 若き田中先生の学会への貢献

この後、田中正郎先生は LISREL のマニュアルを翻訳して、学会活動を通じて LISREL の有用性を伝え、多くの研究者に影響を与えました。また、阿部周造先生や青木幸弘先生が LISREL を使った実証研究をするときには田中正郎先生が指導・協力していました。このようにして、田中正郎先生は LISREL を消費者行動やマーケティング分野の実証研究に使えるようにするために多くの努力をされ、多くの研究者に影響を与えたのです。

若き田中先生は、このように実証研究に LISREL を普及させることに大いに貢献しました。そんな若き日の田中正郎先生と共同研究する機会を与えてくださった故鈴木安昭先生に感謝すると共に私と長い事共同研究してくれた田中正郎先生に心から感謝申し上げたいと思います。

(了)